

世界のモデルになっている日本の学校給食 その1

毎日展開されている驚くべき給食風景

日本の学校給食は、世界一と言われるほど進化してきた。ほとんどの日本人はそのことに気が付いていないが、外国から見学に来た外国人は、例外なく驚いている。

給食の時間になると、その日の給食担当の児童・生徒は、白いエプロンを着て調理場から給食を運んでくる。教室で全員にご飯とおかずを皿やどんぶりに盛り付け、全員が手を合わせて「いただきます」と唱和して食べ始める。

食べている合間に、栄養教諭が教室に回ってきて、その日食べている献立に使われている食材や献立内容、栄養分、食事のマナーなどを手短かに講義してくれる。

食べ終わると、給食当番は食器を回収して調理場まで再び返却しに行く。7歳の小学1年生も15歳の中学3年生も同じような給食当番の仕事である。

ドイツから見学に来た教育関係者は、このような風景を見て、いま自分たちが見学している風景は、外国人に見てもらうために特別にやっている学校給食と思ったという。

ところが、その時刻、日本全国で全く同じような風景が展開されていることを知って、腰を抜かささんばかりに驚いたという。



東京都小平市の小学校で級友に学校給食を配る子どもたち（このような風景が毎日、正午ごろに、日本全国で一斉に展開されている）

130年以上の歴史を持つ日本の学校給食

日本で学校給食が始まったのは、1889年からだから130年以上前の話である。日本はまだ西欧文化から後れを取り戻そうと必死に技術を導入していた時代である。ただ、教育だけは熱心であり、地方の貧しい土地でも子どもたちは学校に通っていた。

山形県の鶴岡町の大督寺の一角にあった私立忠愛小学には、近隣の子どもたちが通学していたが、昼食時になれば、子どもたちは持参してきたおにぎりや弁当を出して食べていた。ところが家が貧乏な子どもは、昼食を持参してこないため、何も食べないで我慢していた。

それを見ていた住職が可哀そうだと思って、お昼ご飯のない子供たちにおにぎり、焼魚、漬物などを出して食べさせるようになった。もちろん無料である。

これが学校給食の始まりとされている。この風習は次第に日本全国にひろがり、あちこちで同じような給食が始まっていた。



明治 22 年 日本で初めての学校給食、中身はおにぎり、塩鮭、漬物



日本で最初の学校給食を提供した私立小学校あった山形県の大督寺



大督寺には「学校給食発祥記念碑在所」の碑が立っている

1945年8月、日本は太平洋戦争に負けて廃墟となった。都会の学校は壊れたままの校舎も多く、昼食になっても弁当を持ってくる子どもは少ない。この事情を知った占領軍は、アメリカで余っている食料を日本に運び、これを子どもたちの学校給食として出すようになった。

脱脂粉乳とコッペパンが定番の学校給食

戦後、何も無い日本へ、アメリカの大統領直轄機関の救済統制委員会は、多くの食料と衣料などを送ってきた。その中に日本人には初めての脱脂粉乳があった。

脱脂粉乳とは、生乳や牛乳または特別牛乳の乳脂肪分を除去したものから水分を除去したものである。保存性がいいうえ、蛋白質、カルシウム、乳糖などを多く含んでおり、栄養価が高かった。

これをお湯で溶いた牛乳風の白い飲みものが学校給食に出てくる。これとアメリカから送られてきた小麦粉で作ったコッペパン。これがいわば主食であり、これに野菜の煮物、魚の干物とか肉類の加工品がほんのわずかについてくる。それでも何もない時代だからよく食べた。

そうはいつでも脱脂粉乳だけは、これまで飲んだことがない飲み物だから日本人の口に合わない。まずいので、多くの子どもたちは目をつぶって飲んでいて、その脱脂粉乳に刻みネギが浮かんでいるときもあり、子どもたちは大騒ぎして飲んだものだった。

いま脱脂粉乳はメロンパン、マフィンなどの菓子作りの材料として使われていると聞いている。



戦後間もなくのころの学校給食。コッペパンに脱脂粉乳だけだった

学校給食の基盤は貧しかったために出来上がった

戦後の貧しい時代、食べるものがのろくにない時代だからこそ、学校給食は全国で着実に実施されるようになり、日本の学校給食の基盤が出来上がった。

最初は、アメリカからの救援物資に頼っていたが、やがて日本全国の農山地や

漁業をする地域では、地元で収穫した作物や漁獲類を提供するようになり、学校給食の献立も少しずつ多様になっていった。



1950年代になって、コッペパン、脱脂粉乳によるやく汁物などが追加された

1950年代はまだ、子どもたちの影響補給のための学校給食という目的があり、戦後を脱していなかった。それが1960年代、70年代と年代を刻むにしたがって献立もその時代に合わせて変化していった。

だから、日本人は生まれ育った年代によって、よく食べた学校給食を覚えており、懐かしさとともに栄養に対する教育の歴史に気が付くのである。

(つづく)

文/写真：馬場錬成（科学記者）